

平成29年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立 清原中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成29年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

平成29年4月18日(火)

3 調査対象

小学校 第4学年, 第5学年 (国語, 算数, 理科, 質問紙)

中学校 第2学年 (国語, 社会, 数学, 理科, 英語, 質問紙)

4 本校の実施状況

第2学年	国語	224人	社会	224人	数学	223人
	理科	224人	英語	224人		

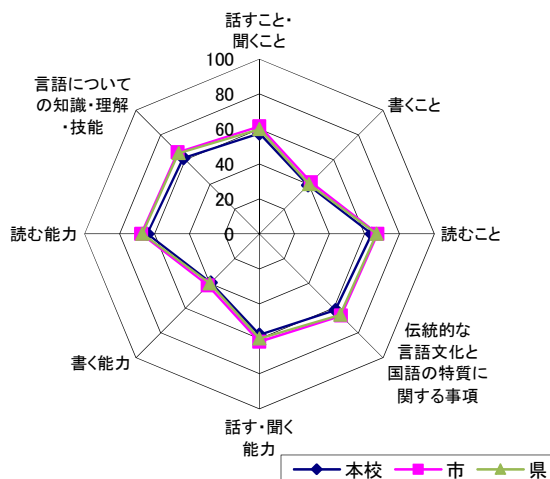
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、 「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立清原中学校 第2学年【国語】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	57.6	61.6	59.9
	書くこと	39.4	41.7	40.1
	読むこと	64.2	67.6	67.0
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	61.5	66.1	65.4
観点	話す・聞く能力	57.6	61.6	59.9
	書く能力	39.4	41.7	40.1
	読む能力	64.2	67.6	67.0
	言語についての知識・理解・技能	61.5	66.1	65.4



★指導の工夫と改善

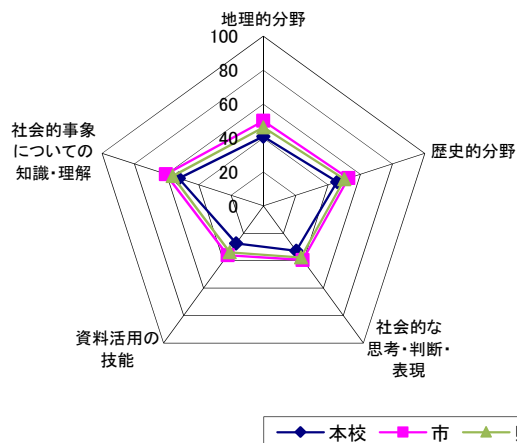
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	●平均正答率が県平均より2.3ポイント、市平均より4.0ポイント低い結果となっている。	・まずはしっかりと聞くことを授業の中で身につけさせたい。また話す場面をなるべく多く設定し、自己表現活動を充実させたい。
書くこと	●他に比べて落ち込みが大きい。書いて表現することへの抵抗や、思考や書字への煩わしさから、書かずに回答した生徒が多いと思われる。	・書いて表現する機会をなるべく設け、その中で成功体験を積み重ねる。それを発表し互いの考えを理解しあい、次の表現へとつなげたい。
読むこと	○他領域よりも正答率が高い。 ●県平均より2.8ポイント、市平均より3.4ポイントも下回っている。	・設問の意味を理解出来ずに答えたり、解答方法に即した答え方が出来ない生徒が多いので、何を問われているか、どう答えるかを理解させる必要がある。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	●言語についての基本的な知識・理解・技能の乏しさが、ほかの領域にも影響していると思われる。	・読書の一層の推進、漢字の書き取りの練習と小テストの実施、家庭学習での授業の復習の強化(自学ノート提出やワークによる振り返り)に取り組み、基礎的な知識・理解・技能の充実を図りたい。

宇都宮市立清原中学校 第2学年【社会】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	地理的分野	40.8	50.0	46.2
	歴史的分野	45.7	52.6	50.2
	社会的な思考・判断・表現	32.8	39.4	37.6
	資料活用 of 技能	27.3	35.9	33.8
	社会的な事象についての知識・理解	52.4	60.4	56.3



★指導の工夫と改善

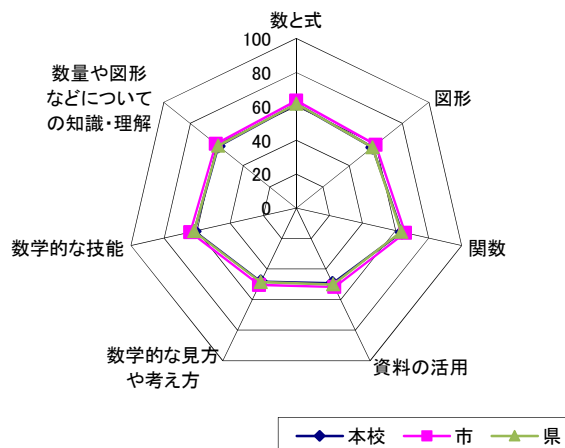
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	平成29年4月18日（火）	今後の指導の重点
地理的分野	<p>●正答率は、県の平均、市の平均を大きく下回っている。特に資料活用 of 能力、社会的な思考・判断・表現で大きく下回っている。設問別にみても、すべての設問で市の平均を下回り、県平均も29問中で2問しか正答率が上回らなかった。どこの内容が弱いというわけではなく、基本的にすべての内容を理解していないと言える。</p>	<p>本校の生徒の状況を見ると、「資料活用 of 技能」、「社会的な思考・判断・表現」については、日ごろの授業の様子から、書くことに苦手意識を持っているようである。自分で書くことを習慣化させなくてはならないと感じる。授業のまとめなどで、資料を読み考察する場面を入れたり、事柄を自分の言葉で説明する場面を作っていきたい。</p>
歴史的分野	<p>●正答率は、地理ほどではないが、県の平均、市の平均を大きく下回っている。 ●内容で見ると、飛鳥時代以降の内容を理解できていないといえる。歴史については定期テストでも「語句」を覚えることはできるが、それを正しく使うことができない。歴史の流れを理解できていないと考えられる。</p>	

宇都宮市立清原中学校 第2学年【数学】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と式	61.4	63.3	61.5
	図形	57.5	59.8	57.4
	関数	63.9	65.9	63.4
	資料の活用	49.2	51.7	50.1
観点	数学的な見方や考え方	48.2	50.4	48.5
	数学的な技能	61.7	64.1	61.9
	数量や図形などについての知識・理解	58.7	60.6	58.9



★指導の工夫と改善

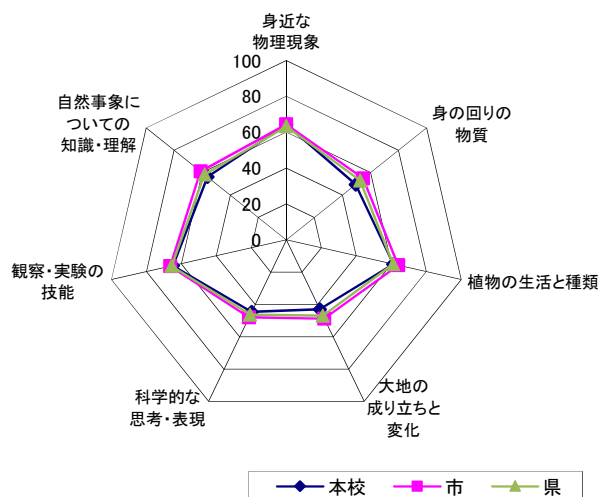
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	○不等式の数量関係を正しく表したものを選ぶ問題に関しては市・県平均ともに上回った。 ●自然数を選ぶ問題、一次式の計算、分配法則といった基本的な知識を問われる問題や計算問題が市・県平均を下回っている。	分配法則等の一次式の基本的な計算問題の正答率が低いことに関しては、単純に計算の練習量が足りていないことが考えられる。とにかく問題を多くこなすことが必要であると考えられる。そのためドリル学習などを用いて習熟を図っていく。
図形	○ねじれの位置や垂直二等分線といった用語を答える問題は宇都宮市平均を上回っている。 ●作図の問題は宇都宮市平均を4.7ポイント下回るだけでなく、栃木県平均も0.6ポイント下回る。おうぎ形の面積を求める問題も市・県平均ともに下回った。	ここでは知識理解の問題の正答率が高かった。空間図形の問題に関しては、日々の授業で立体模型やデジタル教科書等を用いることで、立体をイメージできるように指導をしたい。作図の問題も、基本的な3つの作図を定着させるとともに、それを組み合わせた発展的な問題にも取り組ませたい。
関数	○比例のグラフから式を導出する問題は宇都宮市平均には届かなかったものの、県平均は3.3ポイント上回った。 ●比例の関係について、 y を x の式で表す問題が宇都宮市平均を2.8ポイント下回った。	・比例と反比例の特徴を式、表、グラフで比較させながら捉えさせるようにするとともに、座標を正確にとり、グラフをかく練習を反復して行っていく。
資料の活用	○度数分布表から階級を求めたり、中央値の入る階級を求める問題は宇都宮市平均を上回っている。 ●相対度数を求める問題は宇都宮市平均よりも8.8ポイント、ヒストグラムからデータの説明をする問題では5.0ポイント下回った。	知識の部分が定着していたとしても、それを活用する能力が不足しているようである。導出過程を説明したり、文章にしたりする活動を授業の中で取り入れる必要がある。

宇都宮市立清原中学校 第2学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	身近な物理現象	64.3	64.3	63.2
	身の回りの物質	49.5	54.8	52.8
	植物の生活と種類	61.2	64.0	61.1
	大地の成り立ちと変化	43.0	48.8	47.0
観点	科学的な思考・表現	44.6	48.0	46.4
	観察・実験の技能	64.9	66.4	65.6
	自然事象についての知識・理解	56.2	61.1	58.3



★指導の工夫と改善

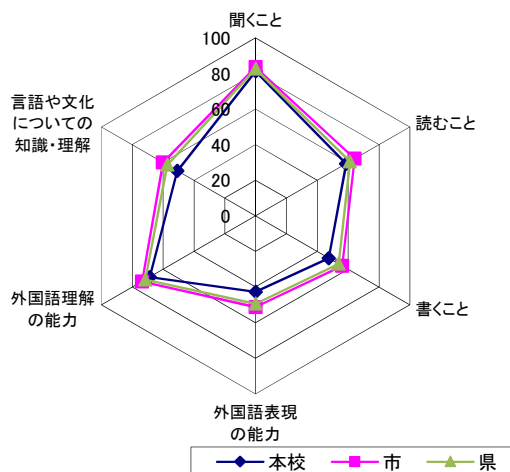
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
身近な物理現象	<p>○平均正答率は市の平均と同値である。鏡で反射した光の進む道筋や凸レンズに入る2本の光の進み方についての正答率が市の平均より上回っている。</p> <p>●音の性質については弦のはり方と振動数・音の高低の関係について正答率が低い。</p>	<p>・実際に目で見たり図で示したりした事項の定着度が高いので、今後も授業中に作図をしたりグラフを書いたりしてその結果を用いて考察を進めていきたい。</p> <p>・実験・観察の結果を表で表したりして法則を導き出したり、その法則を利用して問題演習をくり返すことで理解を深めたい。</p>
身の回りの物質	<p>○水が氷に変化したときの粒子のようすについての正答率は市の平均よりも上回っている。</p> <p>●平均正答率は市の平均よりも5.5ポイント下回っている。特に、グラフから析出する固体の質量を選び、理由を説明する問題については市の平均よりも大幅に下回っている。</p>	<p>・図やグラフの読み取りに課題があるので、縦軸や横軸が何を表しているのかを丁寧に説明して理解を深めるよう努めたい。</p> <p>・質量パーセント濃度や密度の計算の復習が必要である。観察・実験の技能の指導は今後も丁寧に継続し、今後は実験で得られた結果についての考察を助ける手立てを施していきたい。</p> <p>・授業中に実験・観察を行い、体験することで理解が深まり、モデルでの表現の高い正答率につながっているので、今後も体験を重視したい。</p>
植物の生活と種類	<p>○スケッチの仕方や実験操作の理由を説明する問題についての正答率が高い。</p> <p>●平均正答率は市の平均よりも2.8ポイント下回っている。裸子植物の名称を答える問題において市の平均を6.7ポイント下回っている。</p>	<p>・中学校に入学して最初に学習した分野で、当時の学習状況は良好であった。自主学習において過去に学習したものも継続して取り組むよう指導したい。</p> <p>・実験・観察により実体験を伴うことで知識の定着が図れるため、今後も実験・観察の機会を数多く設定していきたい。</p>
大地の成り立ちと変化	<p>○地層の様子から海の深さの変化について考察する問題の正答率は市の平均とほぼ同じである。</p> <p>●平均正答率は市の平均よりも5.8ポイント下回っている。「主要動」や「示準化石」など名称を答える問題では市の平均を大きく下回っている。</p>	<p>・火山や地震などの自然現象に興味をもたせたい。資料などを有効活用し興味を引いていきたい。</p> <p>・昨年度末に学習した内容であるにもかかわらず、用語の定着に課題が見られたことから、自主学習において学習内容をすぐに復習するよう指導したい。</p>

宇都宮市立清原中学校 第2学年【英語】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	聞くこと	81.2	83.6	82.6
	読むこと	58.7	64.2	61.2
	書くこと	47.4	56.2	53.8
観点	外国語表現の能力	42.7	51.2	49.4
	外国語理解の能力	68.7	73.7	71.5
	言語や文化についての知識・理解	50.8	60.1	57.3



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	<ul style="list-style-type: none"> ●正答率は、市と県の平均を下回っている。 ○対話文の聞き取りについては、県の平均を1.4ポイント上回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・聞き取りについては、授業では英語に苦手意識がある生徒も前向きに取り組もうという姿勢が見られる。定期的に、単元ごとにリスニングテストを実施するなどして、英語を聞き取ることを慣れさせていきたい。 ・クラスルームイングリッシュを充実させ、英語を聞くことに対する抵抗を減らしていきたい。
読むこと	<ul style="list-style-type: none"> ●正答率は、市と県の平均を下回っている。特に、長文の読み取りと語順整理の問題の正答率は40パーセント代である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・長い英文を読むことに苦手意識をもっている生徒が非常に多い。日本語訳を与える前に、長文を読んで、内容を考える練習をさせる必要があると考える。また、英文の質問に答えることが苦手なので、長文を読んだ後に、英文の質問を与えて考えさせるようにしたい。 ・語順整理の問題では文法事項や文型の理解ができていない生徒が多いので、文法事項を教えた後に、ドリル問題を解かせていきたい。
書くこと	<ul style="list-style-type: none"> ●正答率は、市と県の平均を5ポイント以上下回っている。3つの領域の中で最も低い値である。特に、場面や条件に応じた英作文においては、県の平均から13.2ポイント低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・絵を見たり、対話文の内容を読んだりして、適切な英文を自分なりに考えて書く練習が必要であると考えられる。 ・今回の、場面や条件に応じた英作文については、教科書で扱った内容と類似した問題であった。生徒にとっては既習の表現であるが、正答できなかった理由は、聞いたたり、読んだりした表現を、書く練習が不足していたからだと考える。今後は、教科書の本文で学んだ基本表現を書かせるようにしていきたい。

宇都宮市立清原中学校 第2学年 生徒質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

【学びの基礎力】

- 家の人と学習について話をしている。
- 難しい問題にでようと、よりやる気ができる。
- 学校の宿題は、やりたくなる内容だ。
- 学習に対して、自分から進んで取り組んでいる。

【社会的実践力】

- テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見ている。

【学級力】

- 授業でわからないところがあると、先生に聞くことができる。
- 学級活動の時間に、友達同士で話し合っクラスのみまりなどを決めていると思う。
- 授業の最後に、学習したことをふり返る活動をよく行っている。
- 授業で扱うノートには、学習の目標(めあて・ねらい)とまとめを書いている。

【家庭学習力】

- 家で、学校の授業の予習をしている。
- 家で、学校の授業の復習をしている。
- 家で勉強するときに、だいたい同じ時刻に取り組むようにしている。

これらのことを踏まえ、次のような事項について、今後重点的に指導の工夫をしていきたい。

- ・授業で本時の学習の流れを示すとともに、学習の「目標」「ふりかえり」の活動を各教科で行っていくこと。
- ・授業の始めに前時の内容を復習・確認し、授業の終わりには本時の復習の内容(家庭学習として)を伝えるなど、授業の予習・復習を含む家庭学習の進め方を適宜指導する。
- ・家庭との連携を図りながら、自主学习ノートなどを活用し、家庭学習の習慣をしっかりとつけ、それをチェックし励ましていくこと。

学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
<ul style="list-style-type: none"> ・めあて・ふりかえり活動の工夫 ・「話し合い活動」の工夫 	<ul style="list-style-type: none"> ・「めあて」「ふりかえり」カードを全教室に配置する。 ・各教科で、「話し合い」活動を取り入れた研究授業の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・「授業では、授業の目標(めあて・ねらい)が示されている。」「授業の最後に、学習したことを振り返る活動とまとめを書いている。」という質問で、両方とも栃木県の肯定群割合を5ポイント以上下回っていた。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
<ul style="list-style-type: none"> ・「書く」活動の工夫・充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・各授業の中に「書く活動」を取り入れていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科の特性に応じて、「授業のまとめ」や授業についての各自の様子をふりかえる活動で、積極的に「書く活動」を取り入れられるよう、校内研修等で共通理解・研修を深め、実践していく。